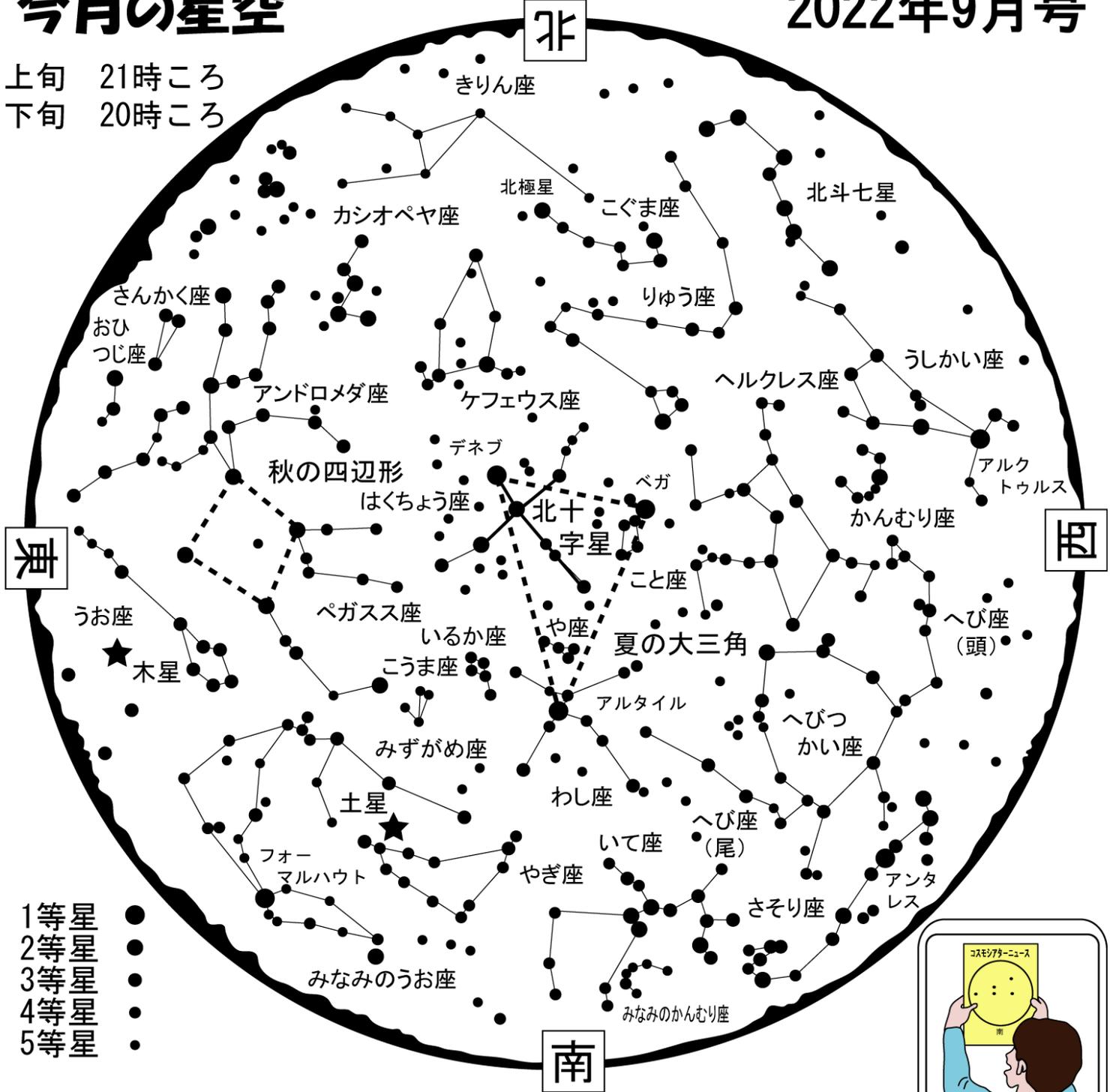


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年9月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しい。
金星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しい。
火星：深夜の東の空に見えます。明るさは0等星です。16日の深夜、月と並んで輝きます。
木星：日の入りすぎ、東の空に見えます。明るさは-3等星です。11日に月と並んで輝きます。
土星：夕方南東の空に輝き、ほぼ一晩中見えます。明るさは0.5等星です。

今月の月の満ち欠け

上弦：4日(日) 満月：10日(土) 下弦：18日(日) 新月：26日(月)

自分の向いている方向を下にして、見てください

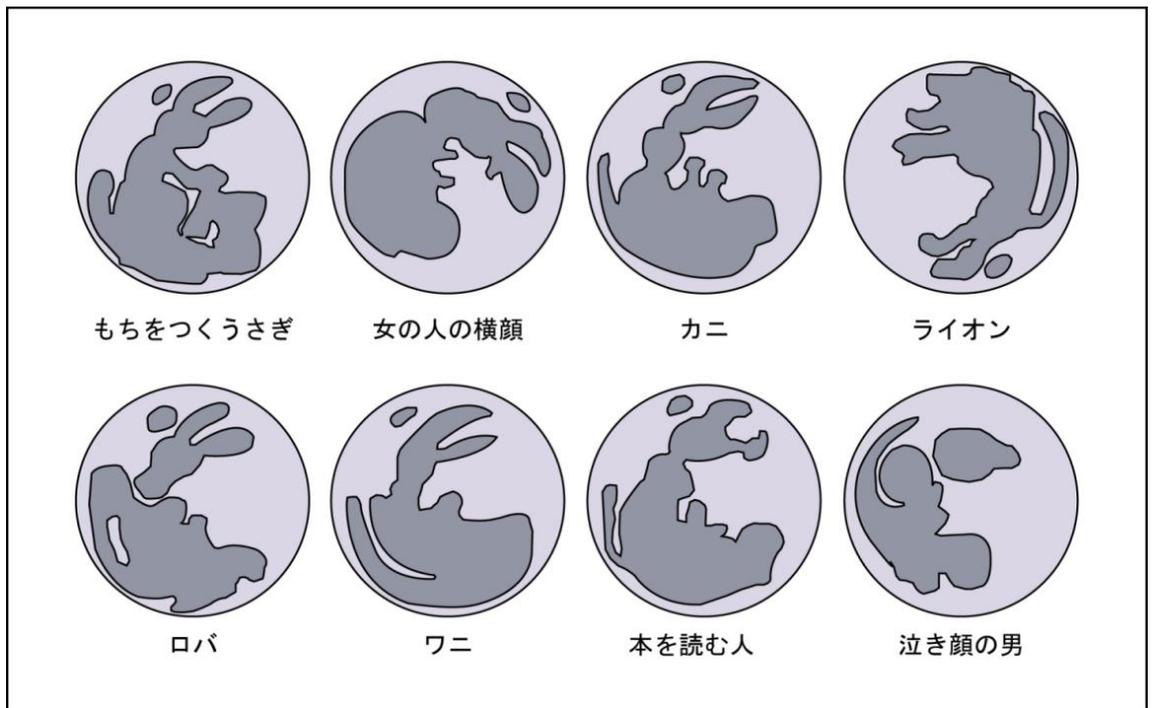
10日(土)、中秋の名月

中秋の名月は、旧暦の8月15日で、いつもほとんど真ん丸の姿となります。今年の中秋の名月は、9月10日の土曜日となります。

この日の月は、18時40分ごろに東の空から昇ります。このころは、まだ高度が低いので、もう少し後の19時~20時ごろが見やすくなるでしょう。なお、今年の中秋の名月は、本当の満月です。このため、肉眼では、まん丸の月に見えるでしょう。

ところで、月を詳しく見ると、白い所と黒っぽい所があります。この違いを見て、昔の人は月にさまざまな姿を想像しました。

図は、さまざまな国で見られた月の姿です。日本で一般的に有名なのが、もちをつかうさぎでしょう。しかし、国が変わればほかの姿もいろいろ考えられました。皆さんも、月にどんなものが見えるか、実際の空でご覧ください。



11日(日)、東の空で、月と木星が並んで輝く

11日(日)の19時30分ごろ、ほぼまん丸の明るい月が東の空に昇ってきます。そして同じころ、この月の少し左に昇ってくる明るい星が木星です。木星は大変明るいので、月の輝きにも負けず、大変目につくでしょう。そして、時間が進むと、南の空にうつり、さらに見やすくなります。肉眼でよく見えますので、ぜひご覧ください。

16日(金)、深夜の東の空で、月と火星が並んで輝く

16日(金)の22時ごろ、ほぼ半分に欠けた月が東の空に昇ってきます。そして、月に30分ほど遅れて、オレンジ色の明るい星が昇ってきます。この星が、火星です。火星は、0等星で1等星より明るいので、肉眼でもよく見えるでしょう。なお、火星のすぐ右側にもオレンジ色の星があります。これは、おうし座のアルデバランです。火星より少し暗いのですが、1等星で明るいので、火星と間違えないでください。なお見やすいのは、火星の高さが高くなる、23時半以降になります。

27日(火)、木星が衝

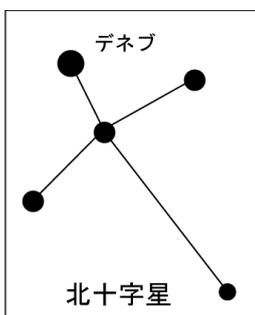
木星が27日(火)に衝(ほぼ一晩中見える)となり、観望の好機となります。今月、木星の明るさは3等星、1等星の40倍くらい明るく輝き、すぐに見つかるでしょう。

木星は、肉眼で見ると普通の明るい星にしか見えません。しかし、天体望遠鏡を使うとしま模様が見えてきます。また、目玉のような大赤斑(だいせきはん)と呼ばれる、模様も見ることがあります。

なお、コスモシアターで実施する10月以降の星空観望会で見ることができます。ご覧になりたい方は、ぜひご参加ください。



★北十字星と南十字星



21時ごろ、頭の真上にはくちょう座が輝きます。このはくちょう座の星の並びのうち、左の図の星の並びを、北十字星(きたじゅうじせい)と呼びます。いっぽう、南十字星(みなみじゅうじせい)と呼ばれる十字の星の並びは、右の図のようになります。ただ、松山からは、残念ながら南十字星を見ることはできません。

さて、同じスケールで並べて、この二つの十字の星を見ると、北十字星がかなり大きいことが分かります。いっぽう、南十字星は小さいのですが、明るい星が近くに並び、夜空ではたいへん目立つ存在になるそうです。

